

特23

265

コドモの
ステッキ帖

活動寫眞

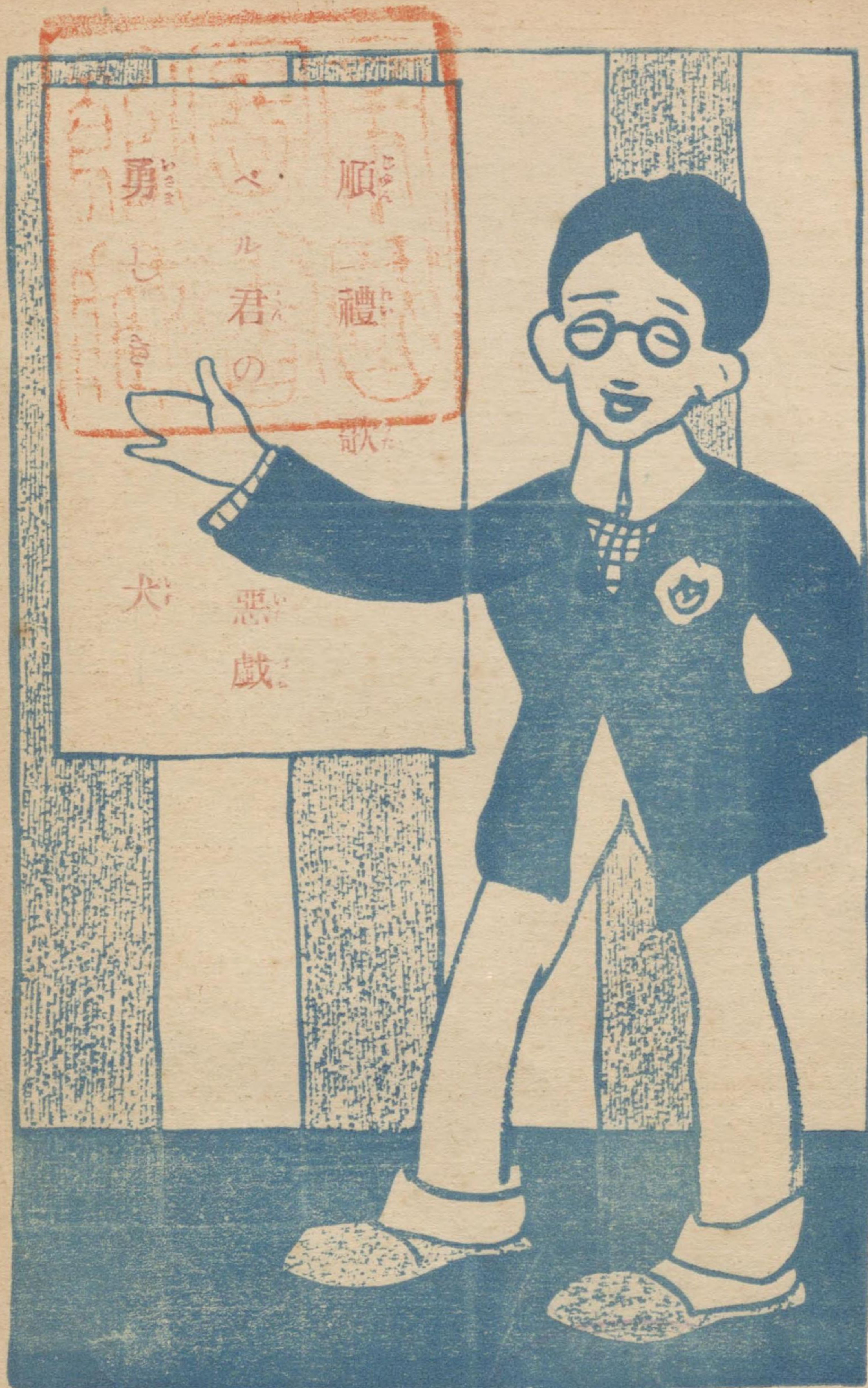
にて



268

653

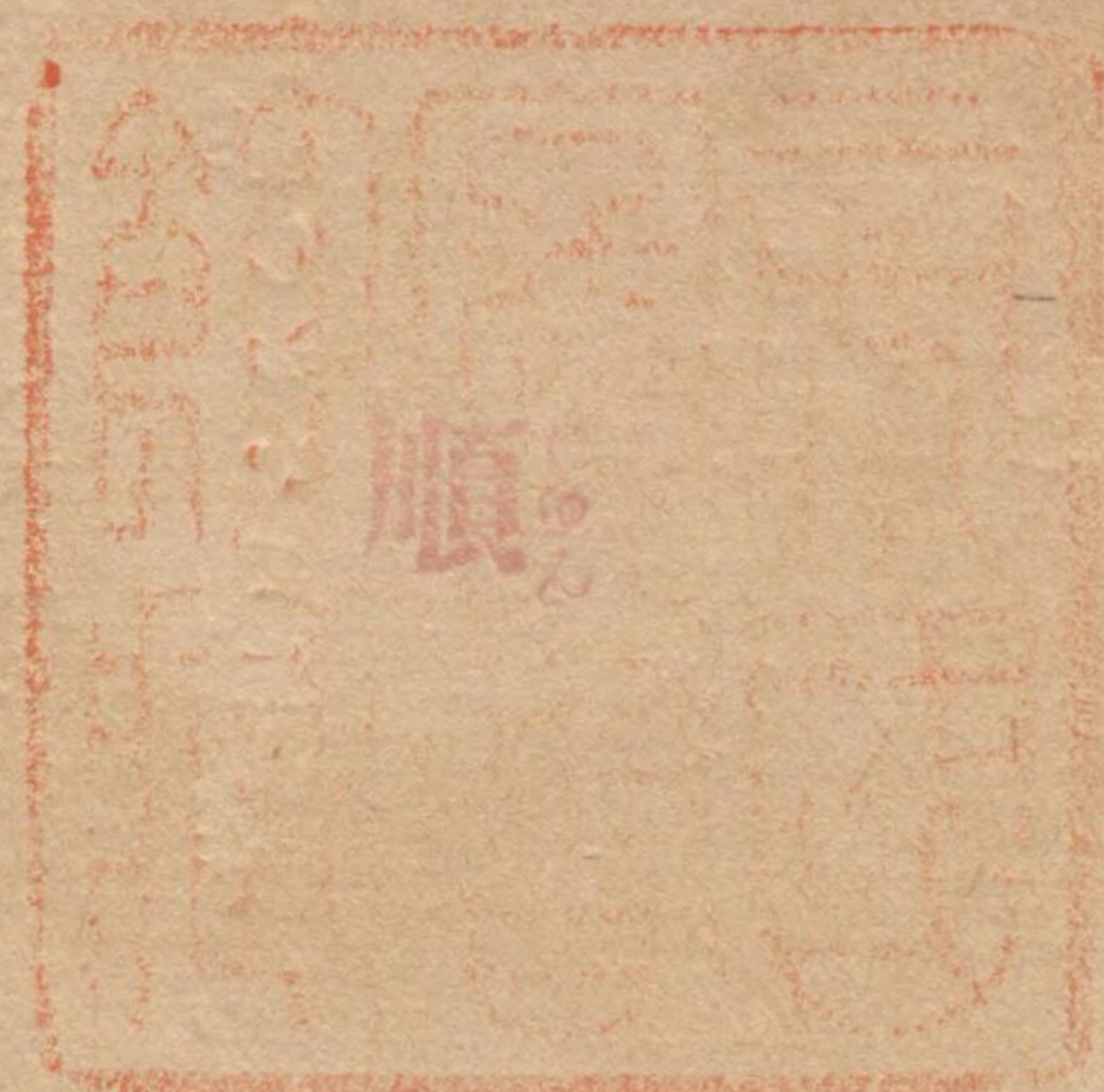




44. 2. 21
内交



特23
265



禮

歌





これは日本のお話でございます。

十郎兵衛お弓夫婦の者は悲しい事情があつて、三歳になる娘のお鶴を残しておいて生れ故郷の阿波の國を立退くことになりました。

すや／＼と祖母様の膝を枕に眠つてゐる愛兒の寝顔に名残惜しい暇乞をして、ある夜更けて、夫婦は長い旅路にのぼりました。



海を越えて十郎兵衛夫婦は攝津の大坂へかりの住居をしてお
りました。

ある日のこと、お弓は國へ殘して來た娘の事など考へながら縫
物をしておりますと門の方で可愛らしい順禮歌が聞えるので
ございます。

……一疊積んでは母のため

二疊積んでは父のため……

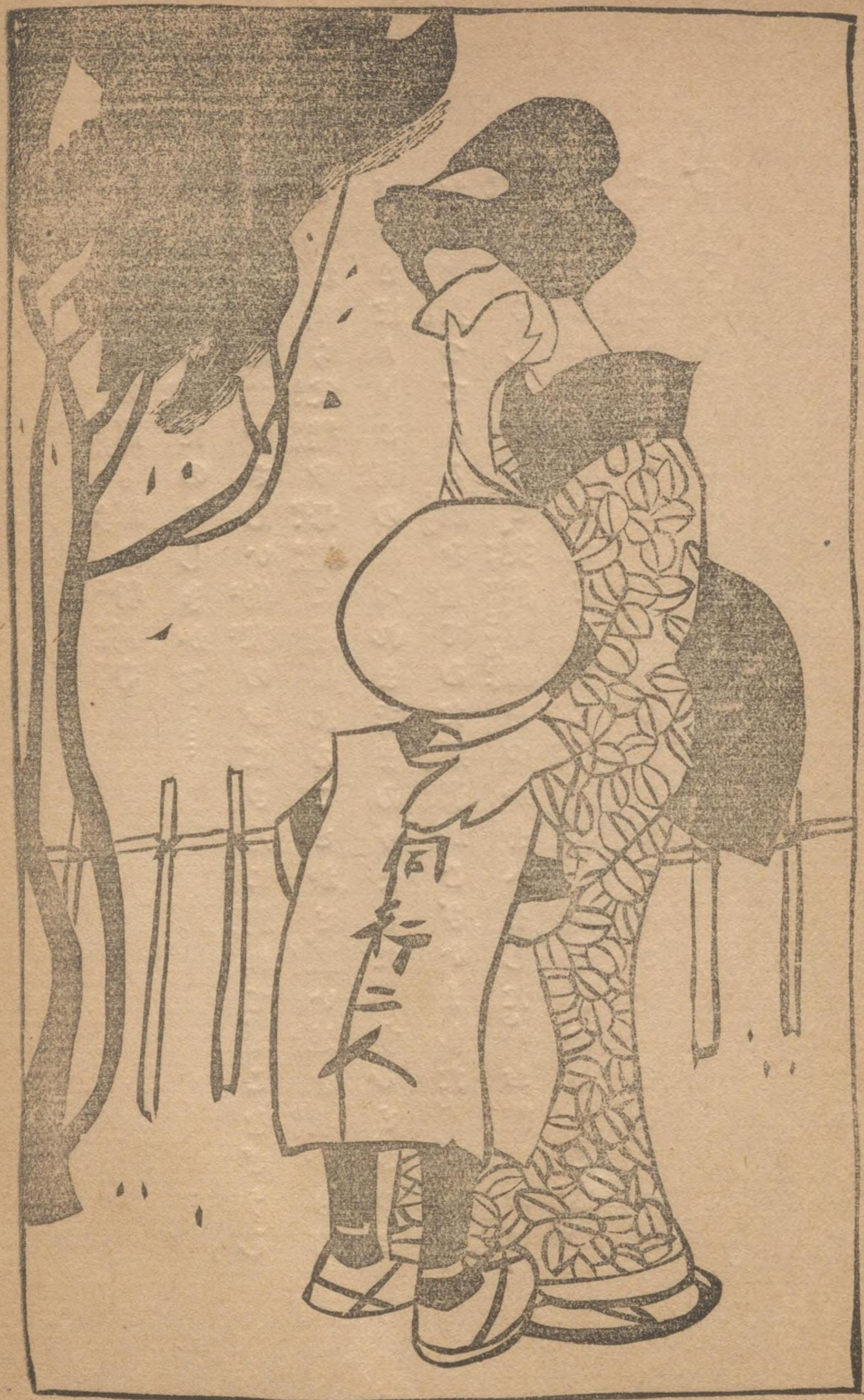
……順禮に御報謝……



それと、お弓は門へ出て見ますと、そこには可愛らしい順禮の兒が同行
二人と記した笈摺をかけて立つてゐました。
「まあ可愛らしい順禮だこと。どれ報酬を進ませよう」「ありがたう存じます」
「おまへさんの國は何處だえ」「阿波の徳島でございます」「まあ、私の生れも阿
波なのだが、そしてまあ父様や母様と一所に順禮するのだらうねえ」「いゝえ、
その父様や母様は私が三歳の年に祖母様にあづけて何處へやら往つてしまひ
なかつたゆへ、こうして所々方々を尋ねて歩くのでござんす」「それはまあご
んなにか心細い事だらうねえ。それはそうと、その親御達の名は何といふの」
「父様は十郎兵衛、母様はお弓と申します」「まあ！」お弓はびつくりしたの
でございませう。今日も今日とて、思出してその身の上を案じてゐた生みの娘
のお鶴なのですもの。見れば見るほどなつかしい音を思はせる稚顔、そし
てまあ忘れもせぬ、左の眉に見覺えのある黒子！



「まあ、私はおまへがたづねてゐるその母親だよ」と言はうとしたが、いや／＼
人に秘れた今の身の上、打あけてはこの子にも難儀がかかるかもしれぬゆへ、
悲しさを懐しさを憶えて「それはまあ年もゆかないに、はる／＼とよう尋ねて
來ましたねえ、その親御達がお聞きだつたらまあどんなにかお喜びなさるこ
とだろう。けれど可愛い兒を捨て、ゆかねばならぬ親御達には、よく／＼の
事情があつてであるう程に、かならず／＼怒みなどせぬが好いよ」「いえ／＼
勿體ない何の怨みませう、怒みなどはしませぬけれど、ちいさい時に別れま
したゆへ父様や母様の顔もおぼえず、もし逢はれまいかと思へばそれが悲し
うございます」そうだろうともねえ。まあ私はおまへの悲しい話をきいて、
つひ貫泣をしてみましたよ。」



「でもまあ健在でさえあれば、また逢はれないこともあるまいから、早く國へお歸り、ね。さつとそのうち、父様や母様も逢ひにゆきなさるから」そんなやさしく言うて泣いて下さるゆへ、なんだか母様の様におもはれて私はもう歸りたくありません……どんな事でもいたしますゆへ私をおそばにおいて下さい」私も種々に思つて見ましたが、どうもおまへをおいてはためにならぬ餘儀ない譯、聞きわけておくれ。これは僅かだけれど私の志、これを路銀にしてはやく國へお歸り。それでは随分身體を大事にしておくれね。さ、さ、さうするうちに日も暮れる」それではもう参ります。ありがたうござんした」路で病氣にでもならぬやうにね」え、ありがたうござんす」それでは歸つておくれか」さようならば」

見送り見返り、泣く／＼ふたりは別れたのでございます。



……父母の恵も深き粉川寺

佛の誓たのもしきかな……

順禮のお鶴は、やさしい他家のおばさんに別れて、どこをどうして尋ねたら父様や母様に逢はれることかと、重い足を引ずりながらとぼく、と街のはづれまでまわりました。すると、さつきお錢を貰つてゐる所を見てゐた悪漢がございました。淋しい坂路にさしかゝると、突然順禮をつかまへました。お鶴はおどろいて「あれ」と聲をたてますと悪漢は「やかましいわい」と言つて、その口へ手をあてました。お鶴は口をふさがれてそこへ氣絶して倒れてしまひました。



折しも通りかゝつたひとりの人は、その聲をきゝつけて走つて
來て見ると、悪漢は雲を霞と避けてしまつて、可哀そうな順禮の
兒は、そこに倒れて冷たくなつてゐました。
あゝ、もう死んでしまつたのでございます。
「かあいそうに、ともかくも家へ連れていつてやろう」とその人は
死んだ順禮の兒を抱いて家へ歸りました。
その人がこの順禮の父親であらうとは、神様でなふて誰が知つ
て居ましたらう。

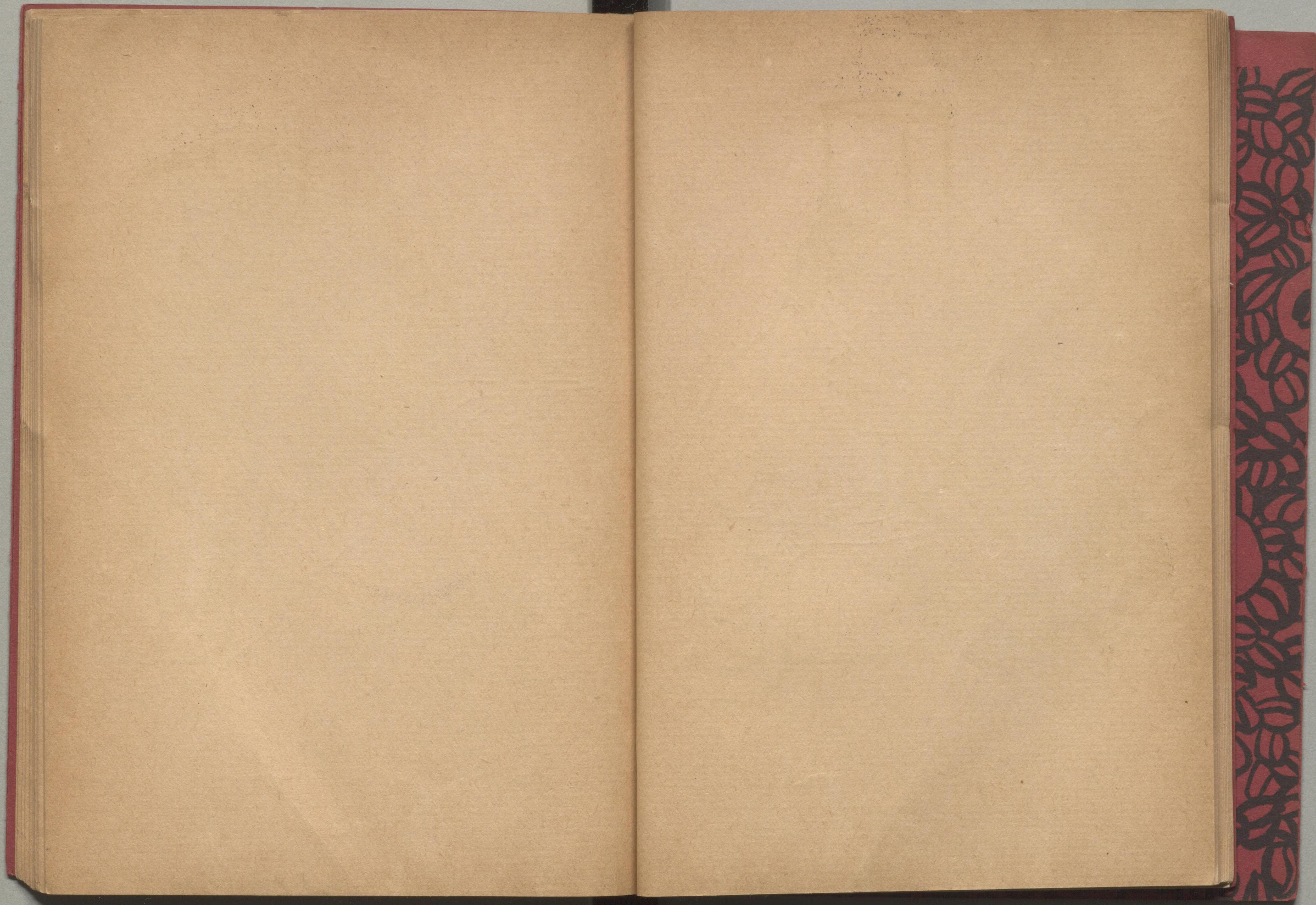


さて、お弓は可愛い我娘の後姿を見送りはしたものの、折角あゝ
して遠い海山を越えて尋ねて来たものを。今別れてしまへば
また何日逢はれるか知れやしない。たとへ難儀がかゝろうと
も、いとしい子をひとり旅へ出して、別れくに住んで何が楽し
かるふ。も、いつそ連れて歸ろふ。そう思ひさだめてお弓
は門を出て、お鶴のあとを追ふて行きました。
入相の鏡が淋しく鳴つて、足もさほもううす暗くなつて、お鶴の
姿は見えませんでした。

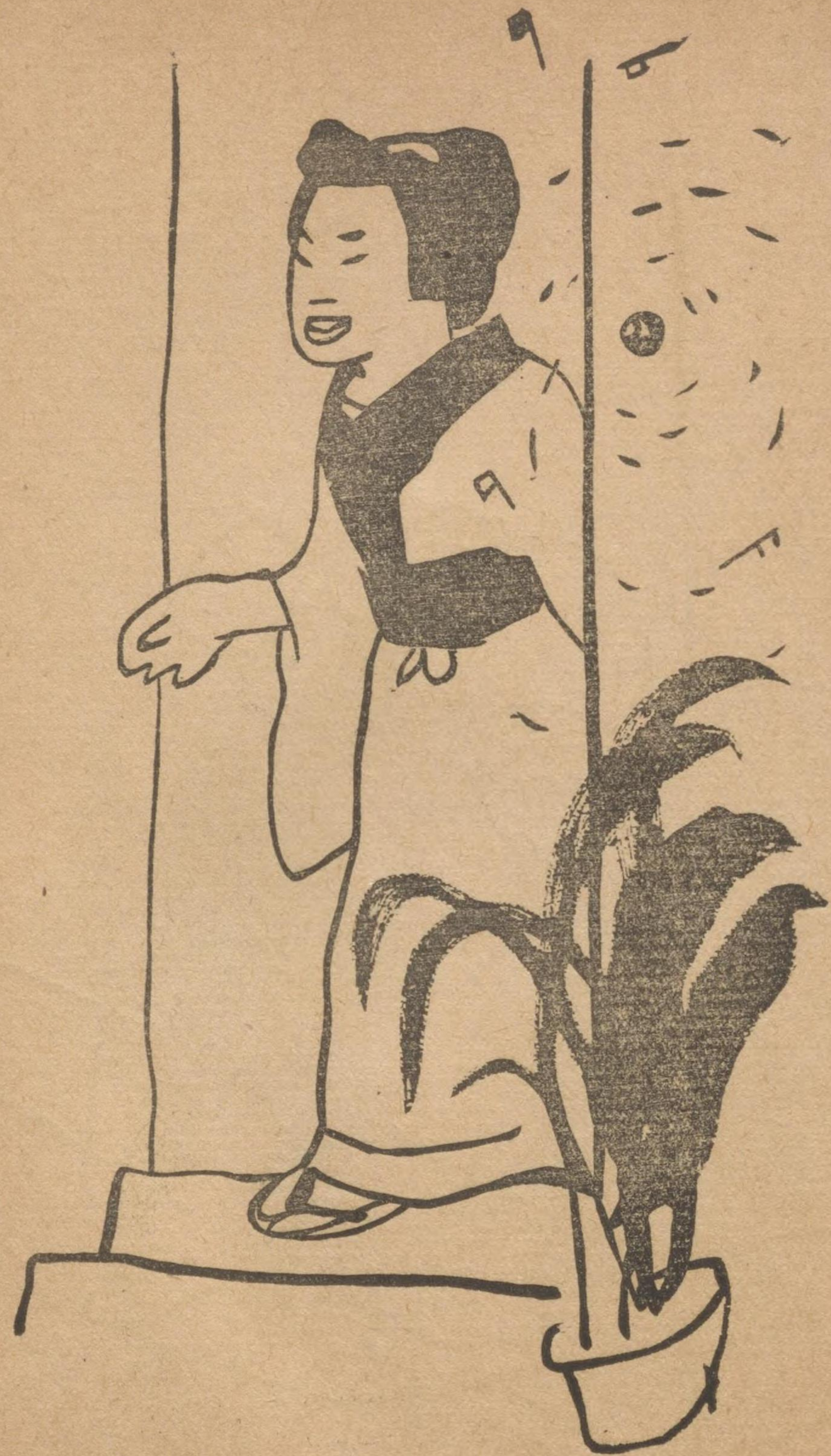


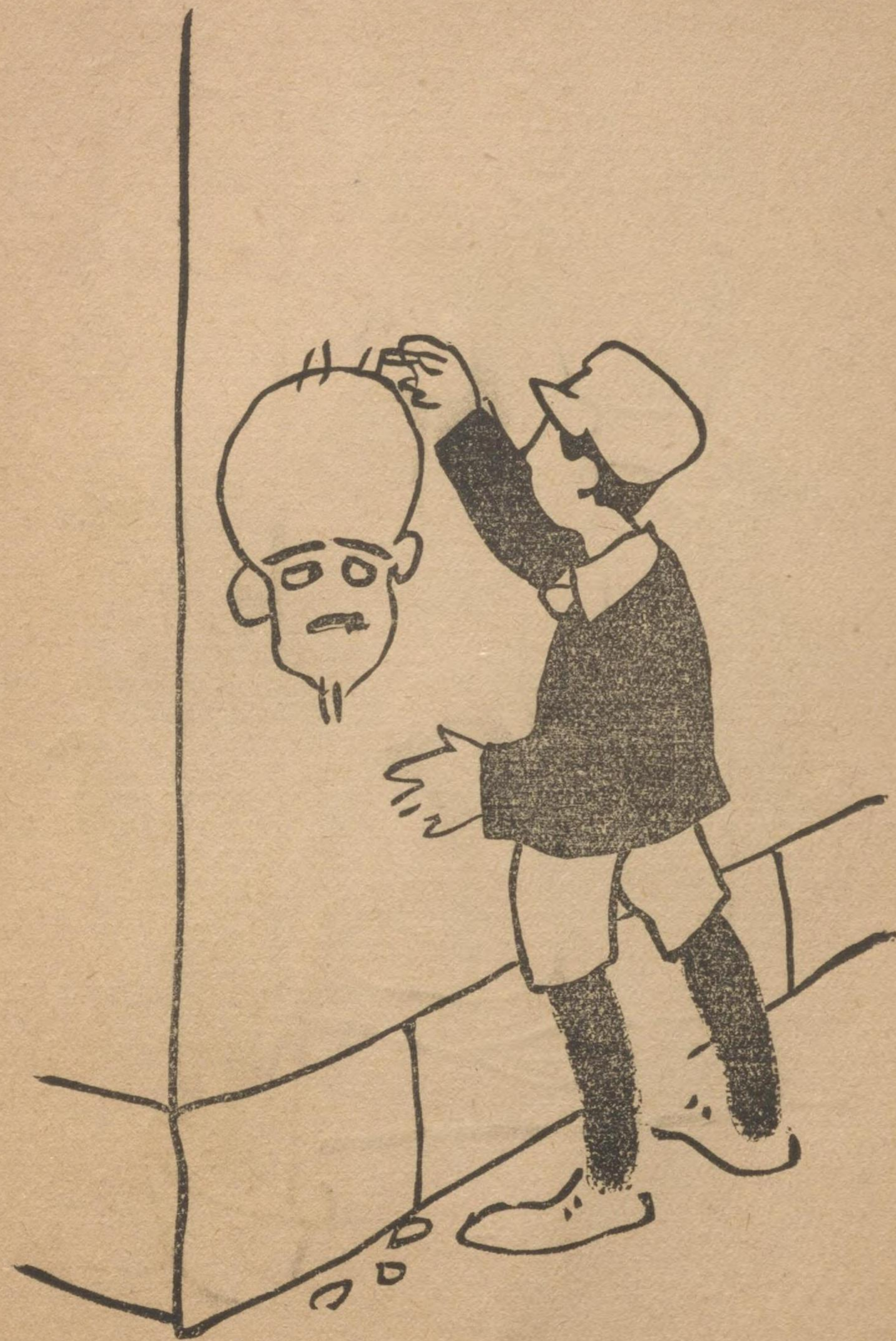
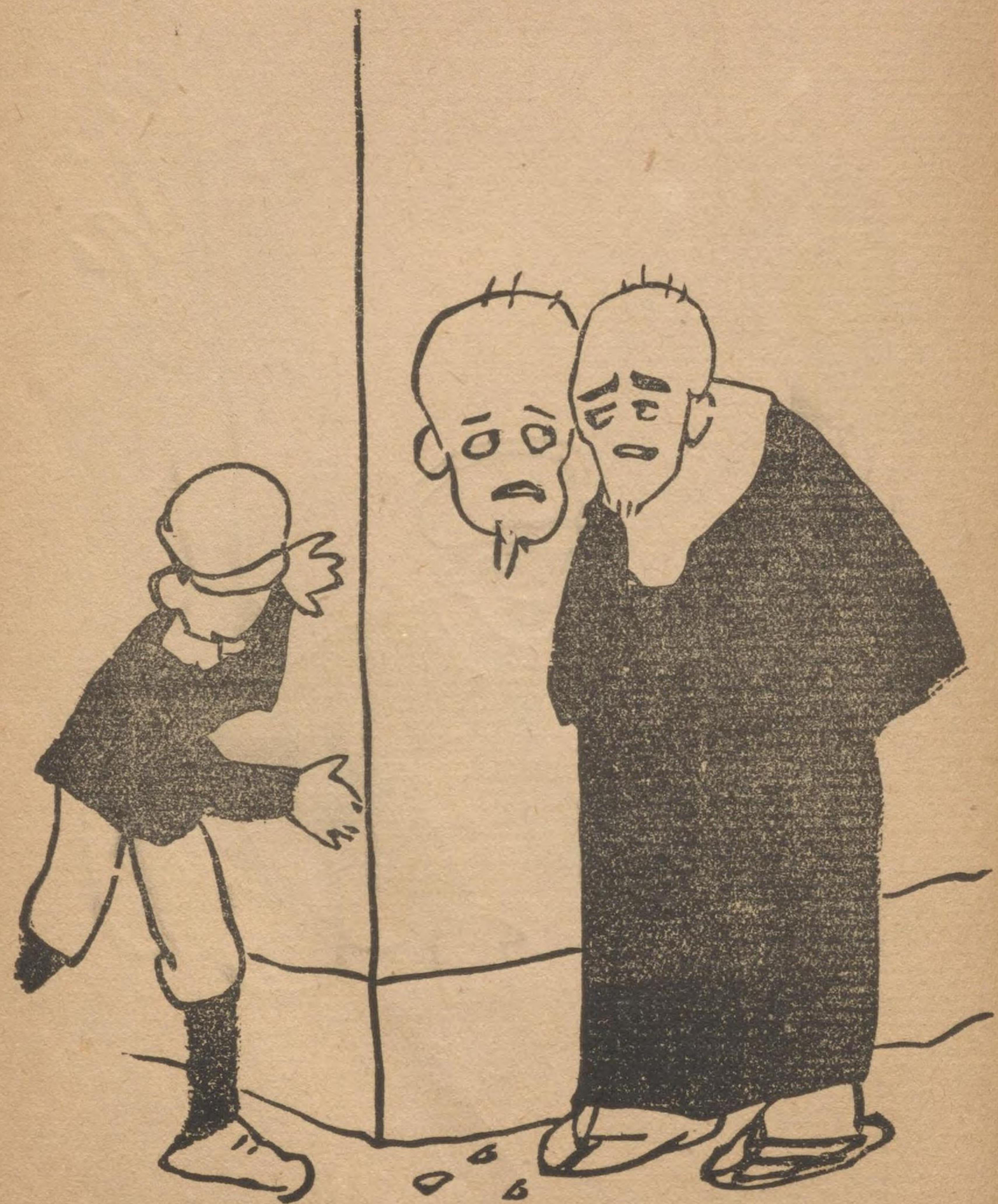


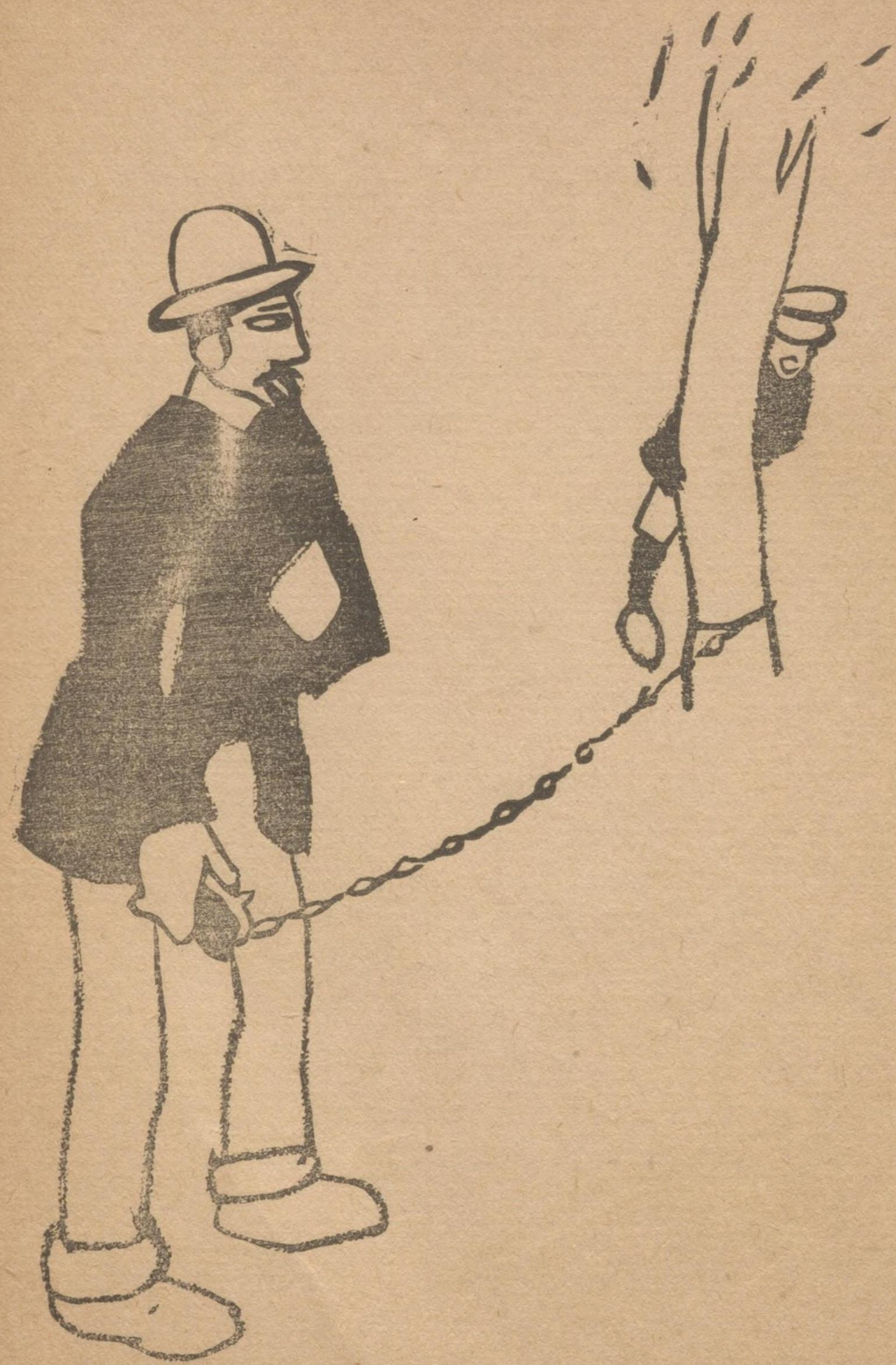


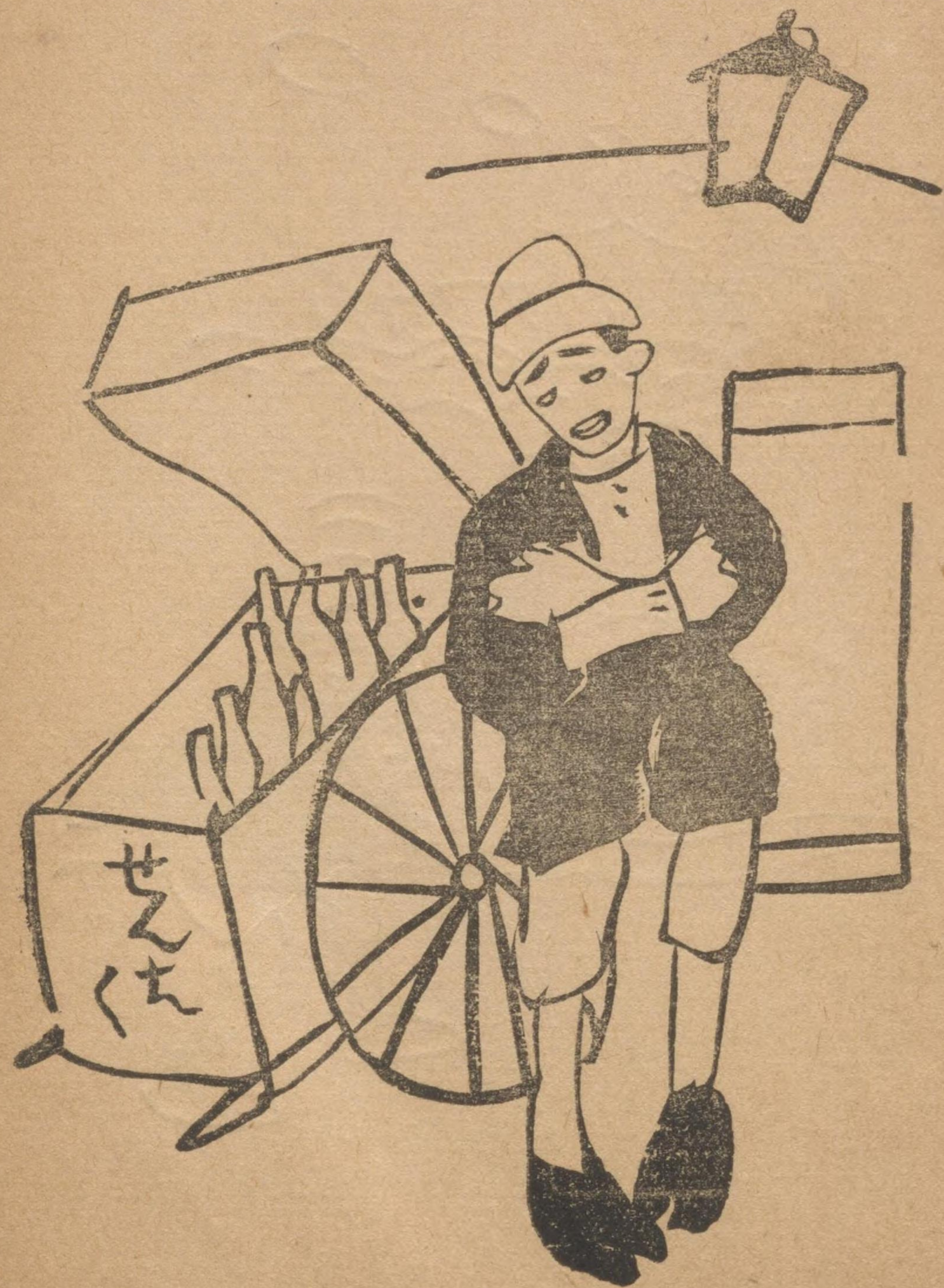












勇

し

き

犬





これは雪の深いロシアの國の物語でございます。メデコフにナ、といふ二人の兄妹は、今日しも學校から歸つてまゐりますとお母様は
「おや、お歸りなさい。外はどんなにか寒かつたらうねえ」 兄妹を勞りながら
「また御苦勞だけれど、バ、さんの許へお辨當を持つていつておくれな」
「え、ママ行つてきますよ寒くなんかあないや」
「あたしも兄さん行つてよ」
「それちや二人でいつておくれな。そうしておまえ達がよく言ふことを聞いておくれだど、バ、さんはどんなにかお喜びなさるか」
「ママ。サンタクラスも御褒美を下さるわねえ」
「ええ、ええ。こんな感心な子供を、誰が褒めないものがありませう」

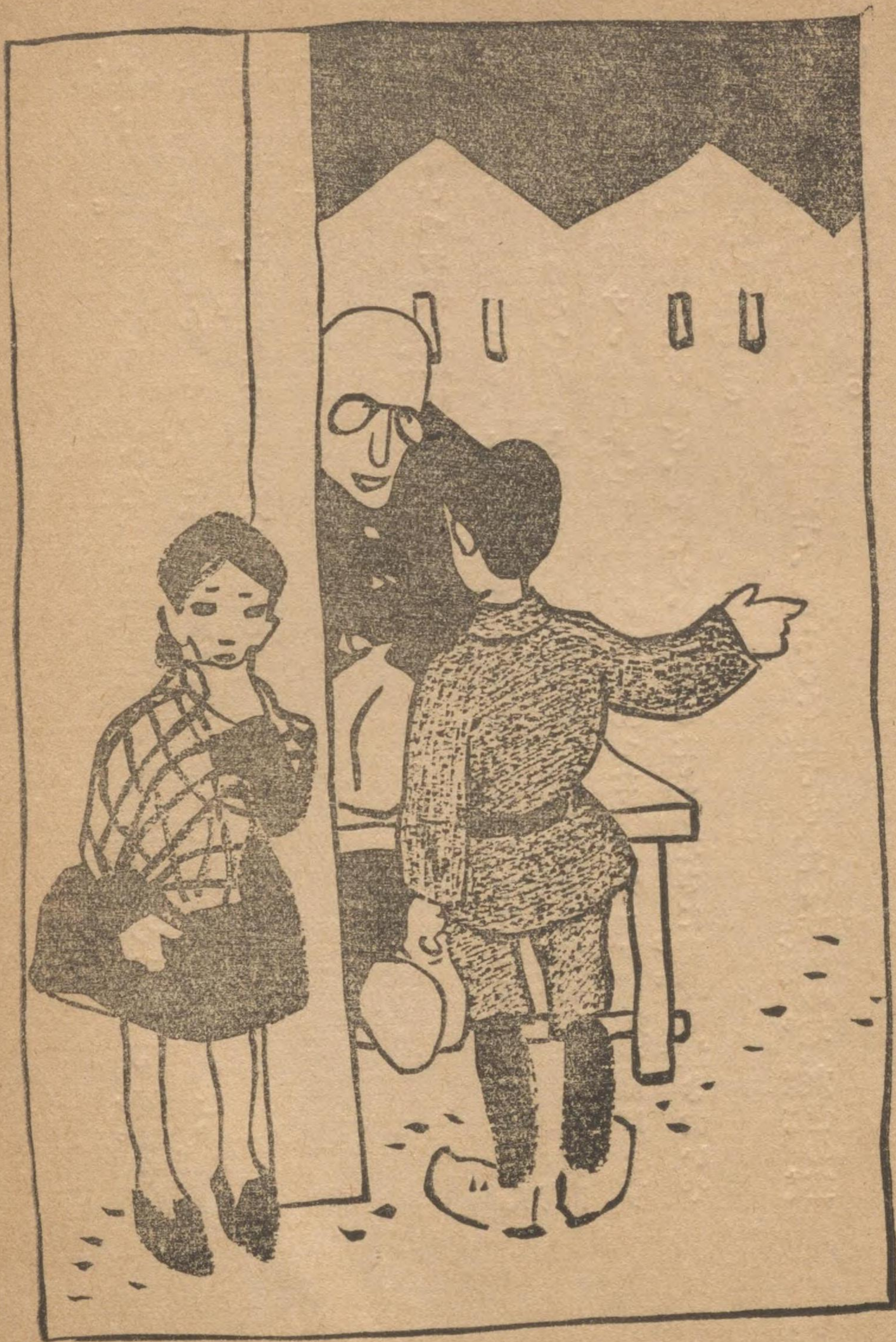


おさんのお辨當を持つて兄妹は家を出ました。兄妹のあとについてゆく犬は、アカにクロといふ、ふたりが氣に入りの犬でした。寒い空からは、白鳩の胸毛のやうな雪がちら／＼ちらと絶えず降つてゐます。寒い風は辨當を持つた手を痛いほど吹きまじました。

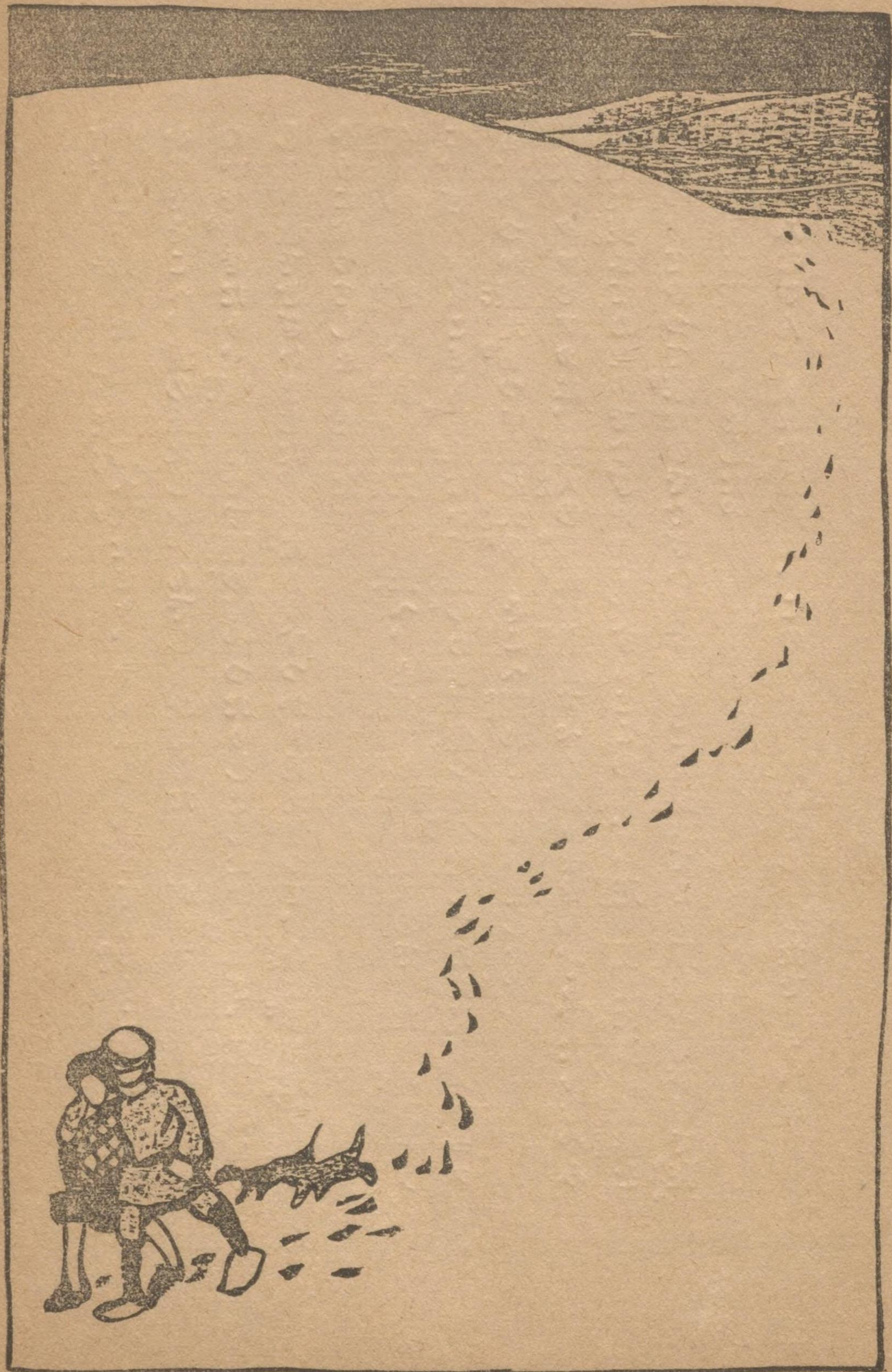
「兄さん、あたしが代つてお辨當を持らませうか」

「いゝよ、大丈夫、もうすぐだから」

おさんといふのは、街から少し離れた山の中の工場で働いてゐる技師でした。大きな坂をのぼつてゆくこやがて工場の煙突が見えました。アカとクロとは、よく道を知つてゐて、ふたりのまへに立つてすん／＼雪の中を走つてゆきました。



やがて工場へついて門番の男にバ、さんにお辨當を渡すやふ
にことづけておいて、兄妹は犬をつれてまたもと来た道へ引返
して来ました。
するどだん／＼と降積る雪に、さき歩いて来た足跡ももう見え
なくなり、それが路やら畑やら、少しもわからなくなりました。
歩いてても歩いてても、さきの路へは出ませんでした。
兄妹が路に迷ったことに気がついた時は、もう、マンマさんの住
んでゐる街も、バ、さんのある工場の煙突も見えなくなつた後
のことでした。
さあ！どうしたら好いたらう。



地獄のやうな黒い空からは絶え間なく、雪が降つて来る。何日やじ
 とおわれませんか。その上に、寒い風が梢を鳴らして吹いて来るので、妹の
 ナはもう泣き出しそうになつてきた。

「ア、ん」

「ア、ん」

「いつお家へ歸れるの」

ナにそう聞かれると、メデコフも、今はもう頼りなくなつてどうすれば好
 いかわからなくなつた。それに手も足も寒さに凍えて今は歩行のさへ不自由
 になつて来た。ナは立止つては足の雪を拂つた。メデコフは妹をはげます
 のうに元氣を出したけれど、やはり、寒さこたよりなさに自分も泣きたいや
 うに悲しくなつて来た。

いつの間にか日が落ちたと見えて、どちらを見ても、たゞ灰色の地、灰色の空
 ばかりでございました。



何處にも知らぬ急な坂路へ来たとき、ナ、はもう、とても歩くことが出来な
 いのでそこへ、雪の上をしゃがんでしまひました。メデコフは自分の外套を
 ぬいで着せたり、頬をよせて暖めてやつたりしました。けれど、兄の心づく
 しも無駄でございました。妹はもうすつかり冷え切つて、今は手も足も氷の
 やうになつてしまひました。
 何も知らぬ雪は、哀れな兄妹の上へ、ますます降り積るのでした。可哀そう
 に、どうすることも出来ないで妹のわきに坐つて介抱してゐた兄のメデコフ
 も、いつか凍え切つて氣を失ひ、そこへ倒れてしまひました。
 愛犬のクロミアは、主人の難儀を救ふすべしと知りませんから、たいじやみ
 に吠え狂ふてゐたのでございます。するとこの時、一疋の飢えた狼が人跡を
 さぐつてやつて来たのでございます。そこへ倒れてゐる兄妹を目がけて狂
 氣のやうに駆けよりました。
 さて、みなさん。哀れな兄妹は、この狼に喰はれてしまつたでせうか!?



否、否。みなさん。そこには勇ましい愛犬と正直な子供を愛する神様がつい
 てゐることを忘れてはなりません。すわこそ敵と、クロはまづチ、と目が
 けて飛んで来る狼を待構へて、その首へキヤツと喰いついた。狼もさるもの、
 すぐに振解いて、こん度はクロに向つて飛びついて来た。あはれクロの咽喉
 はあの赤い恐ろしい口で噛み付かれたと見る間もまたず、アキはもう狼の前
 足へその鋭い牙を打込んでゐた。
 そんなにして、三疋の動物が烈しく戦つてゐる間にも、雪は小止みなく降り
 つゞき、兄妹は、だん／＼と凍えてゆくばかりでした。
 けれど、幸福なことには、悍猛な狼は、忠義な犬に勝つことが出来な
 いで血みどろになつて白い雪の上に倒れてしまひました。この強敵を倒した二疋
 の犬も、今は、もう／＼へと／＼になつた。はた／＼と首のまはりから滴り
 落ちる血汐をなめながらぐつたりとそこへ倒れてしまひました。



話變つて、兄妹の母は待てどくらせど二人の子が歸つて來ないので氣が氣ではありません。歸つて來たら呑ませよどこしらへておいたチヨコレイトを火にかけたりはづしたり窓から路の方を見たり、腰かけて見たり、もうそれは／＼心配でなりません。

「それにしてももう歸つて來そうなものだが、それとも途中で道草でもしてゐるのかしら、いえ／＼おの子達に限つてそんなことは無い。こんな大雪のことだから、もしや途中で何事かあつたのではあるまいか」

そう思ふと矢も楯もたまらず子を思ふ親は、心も心ならず家を出かけたのでございます。



まあこの寒い雪の日に子供等はどこにどうしてゐることだろ
うと氣遣ながら街はづれまで來ますと向ふから彼女の良人が
歸つて來るのに逢ひました。

「あなた子供等ちはどういたしました？」

「どうつて私に辨當をおいてすぐ歸つたがどうかしたのか」

「まだ歸らないのでございます」

「歸らないつて」

「え、」

二人は驚いてそのあたりに住む人々に加勢をたのみ山の方へ
探しに出かけました。



二疋の犬は戦に勞れて一時は倒れてしまひましたけれど、少しの間も、哀れなるちいさき主人のことを忘れはしませんでした。
アカはまづ身を起して、クロの耳のところへ口をあて、何か囁いたのでございます、すると、クロも何か言いました。すると、アカは、あこのことはよろしく頼みますと言つた風な様子を見せて、その場をあとに山を降りはじめました。

クロは倒れた主人のそばにすりよつて、出来るだけその身を暖めようと思つてゐるよふに見えました。傷つたアカは走る途中も幾度かこんばんながらやう／＼街の近くまで歸つてまゐりました。この傷つた動物がどこへ行くかは、言ふまでもありません、主人の母へ注進にいつたのでございます。



村の人々は

「それから何時間位たちますか」

「左様でございます、もう四時間にもなりませうか」

「は、あ、それぢやアどうも心配ですなあ」

など、話しながら山の方へ急いでゐますと、雪の中を黒いものが走つて來ます、よく見るとそれは犬らしいだん／＼近よるのを見ると、それは血にまれた愛犬のアカでございます。その血汐の色を見るなり、一同の胸には、はつと不安な影がさしました。犬は主人の姿を見るや否や、嬉しさ悲しさに尾を振り尾を振り、そして「非常の事」を知らせる様に狂氣のやうに吠えるのであります。



賢い犬は、山の方を見返つては、悲しげに泣いて見せました。恰度あの山の中に非常な事がありますと言はぬばかりに。主人は、犬の心を知りました。

「みなさん、この犬はあれ等兄妹についてゐた犬ですから、きっとこれは、山の中で變事があつたのに違ひありません」

すると犬は主人のさきへ立つて、山路をだんくくと登りはじめました。途方に暮れてゐた一同は、遂に、非常に勇氣を得まして、犬のあとについて山へ山へと上つて行つたのでございます。



山を越え、谷を越えて、子を見失なつた両親と村の人々は、犬のあ
そを走つてゆきました。やがて、ある大きな坂路らしい所へ來
ますと、しきりに犬の吠える聲がするのでした。すると、先きに
立つたアカも、さも嬉しそうに小躍りしながら、その方へ、一目散
に走つてゆきます。見ると遙か上の方に、これも血にまみれた
クロが立つて、救ひの人が上つてくるのを見て、嬉しそうに吠え
てゐるのでした。

近いて見ると、そこにはふたりの兄妹が雪の中に抱き合つて凍
死んでゐた。またその傍には、血にまみれた狼が、死んで横はつ
てゐたのを見て、一同のものは身慄いをした。



駆けもつて両親は子供を抱きあげた。

村の人々は用意して来た藁を燃して兄妹の身体を暖めた。まあよかつた間もなく、兄妹は気がついて呼吸をはじめたのでございませう。

両親の歡喜はいふも更なり村の人々も兄妹の無事を喜こんだ。死をまぬかれたメデユフとナ、はそこに殺された狼の死骸を見て、思議な犬の心を喜んだのでございませう。

明治四十四年十二月十七日印刷
明治四十四年十二月二十日發行

一丁五ノ三番地
東京市麹町區
新橋二丁目

著者

竹久夢二

發行者

河本龜之助

印刷者

藤田千代吉

印刷所

千代田印刷所



發行所

東京市麹町區
新橋二丁目二番地
電話九一四番

浴陽堂

268
653



特23-265



1200500798955

東京ラクヨウ堂

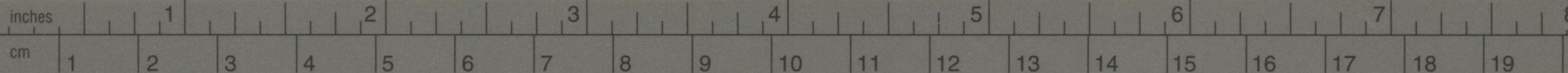
〇〇〇〇

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

